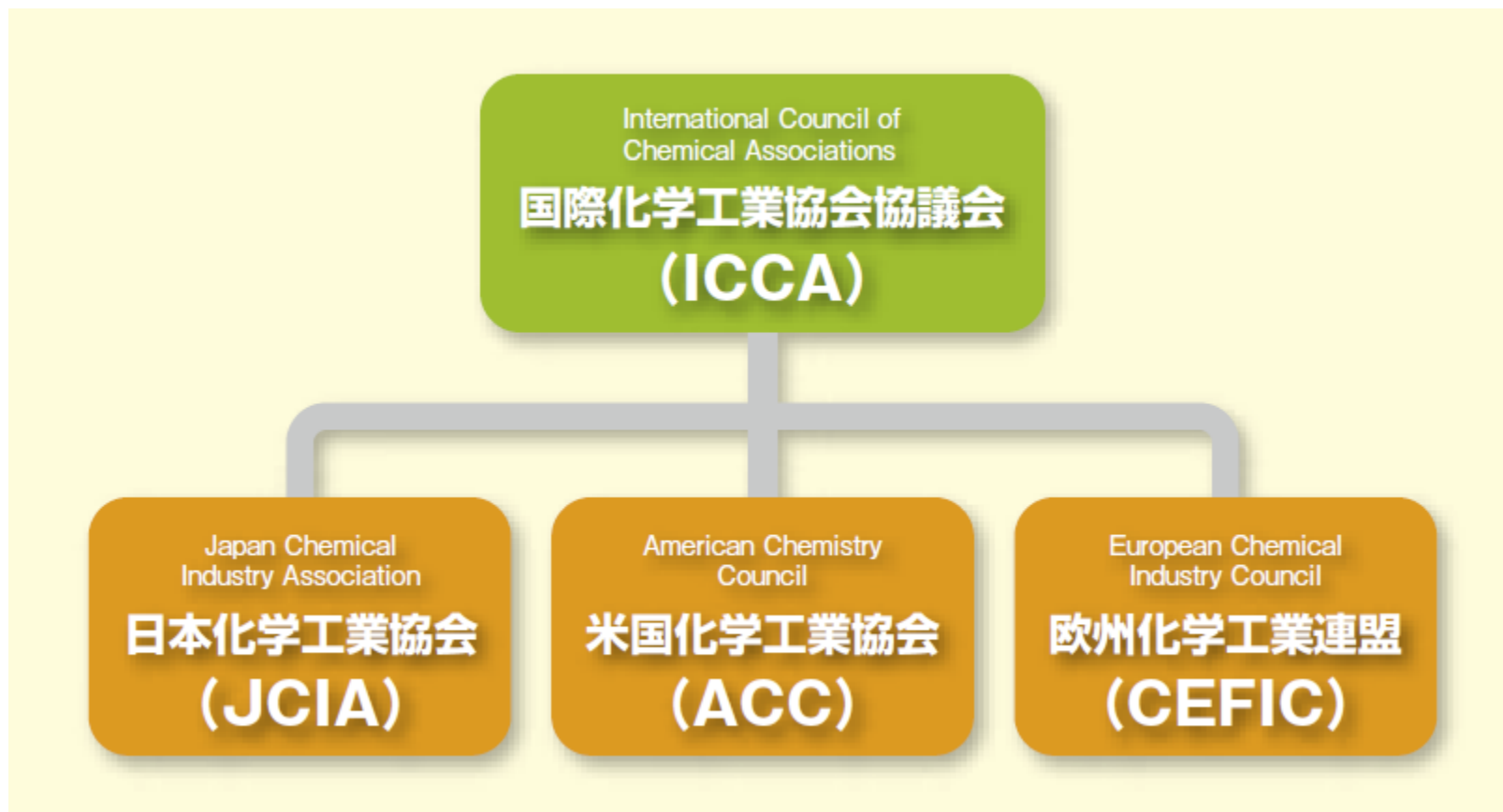


今後の LRI に期待する

LRI 顧問会議 議長

岩本 正和

(東京工業大学教授、北海道大学名誉教授)



ICCA-LRI プログラムは、日本、米国、欧州の3極体制で展開中。

顧問会議からのお願い・期待

- ▶ 評価手法、リスク管理 → 世界標準化、世界調和
- ▶ 化学産業のグローバル化の基礎

新LRIになって変わった点

	従来 of LRI	新 LRI
研究課題	全課題、公募により決定。	「指定課題」を導入。 (日化協としてやるべき課題を自主的に決定。)
研究期間	基本的に単年度	複数年にわたる研究開発を可能に。 (「継続課題」を導入。)
研究対象	広範囲にわたる。 研究者からの応募内容による。	LRIとして4つの研究分野を指定。 次期課題立案のための「調査」「予備研究」 等をフレキシブルに。
課題解決型	研究成果を活かしきれしていない？	モニタリングによるチェック機能を拡充。 「成果」のフォローも行う。

新LRIでは、化学物質管理に関する国際的な課題や動向、化学物質研究の日本および世界における状況を踏まえ“社会のニーズに応える”という観点から右の5分野における課題解決に取り組みます

社会のニーズに応える研究

- 最新の科学的知見に基づく新規リスク評価手法、効果的かつ迅速なスクリーニング手法の開発と評価
- 新規化学物質に対する適切な評価手法の開発
- 社会や行政への科学的データ提供と提言
- 緊要の課題への的確かつ効果的な対応

化学物質管理に関する課題と研究の現状

化学物質管理に関する最近の世界の重要課題

- OECD（経済協力開発機構）、WHO（世界保健機関）は小児などへの健康影響に関心
- 日本では環境省が「子どもの健康に関する全国調査（エコチル調査）」を開始
- ICCM-2（第2回国際化学物質管理会議）の新規課題はナノテクノロジー及び工業用ナノ材料、製品中の化学物質、電気・電子製品の廃棄物、塗料中の鉛成分

日本における化学物質研究の現状

- 基礎的なメカニズム研究が主体
- 化学物質のリスク評価に関する研究が少ない
- 水産資源に負うところが大きい国でありながら河川・海岸などの生態影響評価が不十分

世界の研究潮流

- 研究手法の革新（ES細胞・ヒトiPS細胞、遺伝子レベルの研究など）
- 新たな試験法・動物試験代替法の開発、簡便な曝露評価手法の開発
- コンピュータによる毒性予測
- 化学物質の構造に伴う性質から生体への影響などを予測する手法の開発と活用（定量的構造活性相関（QSAR）、カテゴリーアプローチなど）

1 新規リスク評価手法の開発と評価

2 ナノマテリアルを含む、新規化学物質の安全性研究

3 小児、高齢者、遺伝子疾患などにおける化学物質の影響に関する研究

4 生態・環境への影響評価

5 その他、緊急対応が必要とされる課題

社会のニーズに応える課題解決とタイムリーな情報発信に向けた体制へ

新LRIの取り組み

課題解決型研究の推進

- 社会のニーズ、緊急性を反映した「課題解決型研究」を主とし、これまでの公募に加えて、委託先を指定する「指定課題研究」や既存研究を加速する「共同研究」を導入します
- 研究資金は、課題の重要性や進め方に即して柔軟に配分します
- 化学品規制に関する科学的知識が豊富な研究者の育成を推進します

情報発信

- 研究成果は積極的に学会や論文審査のある学術誌に逐次発表します
- 社会的に関心の高いテーマを取り上げた公開の講演会や研究報告会を開催します

その他

- 広くシンクタンクなどを活用し、調査・研究企画機能を強化します
- 有識者、学識経験者を迎えて顧問会議、学術顧問会議を設け、運営や課題立案における科学的妥当性、透明性の確保を図ります

顧問会議からのお願い・期待

- ▶ **評価手法、リスク管理 → 世界標準化、世界調和**
 - ▶ 化学産業のグローバル化の基礎
- ▶ **公募型研究 → 課題解決型研究**
 - ▶ 研究課題の選定をシステム化、ニーズの掘り起こし
 - ▶ 研究テーマの硬直化を防ぐ(顧問会議、学術諮問会議の任務の一つ)
 - ▶ ユーザー目線(顧問会議の任務の一つ)
- ▶ **ソリューション研究**
 - ▶ 現在の問題点、現代社会のニーズ
 - ▶ 将来、発生する可能性のある課題の見通し、対策

日本化学工業協会 研究支援自主活動

Long-range Research Initiative

(長期自主研究)

**Annual
Report
2012**



2012

Annual Report

顧問会議からのお願い・期待

- ▶ **評価手法、リスク管理** → **世界標準化、世界調和**
 - ▶ 化学産業のグローバル化の基礎
- ▶ **公募型研究** → **課題解決型研究**
 - ▶ 研究課題の選定をシステム化、ニーズの掘り起こし
 - ▶ 研究テーマの硬直化を防ぐ(顧問会議、学術諮問会議の任務の一つ)
 - ▶ ユーザー目線(顧問会議の任務の一つ)
- ▶ **ソリューション研究**
 - ▶ 現在の問題点、現代社会のニーズ
 - ▶ 将来、発生する可能性のある課題の見通し、対策
- ▶ **LRI の認知度を上げる**
 - ▶ 化学業界が一丸となってリスク評価等に取り組んでいることが伝わっているか、仕組みが認知されているか
 - ▶ 個別の発表 + 一般の方の理解増進、公開講演会、出前授業
 - ▶ LRI が役に立っていることを化学系企業にアピール
 - ▶ 厚生労働省、環境省、経済産業省との協働作業